

タマリハ成塚先生に聞く!

タマリハ新聞

第6号
発行所
多摩リハビリ
テーション学院



人に喜ばれたい。誰かの役に立ちたい。

「分からない」「出来ない」はない!



中学生の頃、祖父が脳の病気で入院しました。その時に理学療法士さん(以下PT)が歩行練習のリハビリテーション(以下リハビリ)を行ってくださって、とても感謝しています。伝記で読んだ野口英世に憧れがあり、小学生の頃にはすでに医療の仕事を意識していました。偉人伝という立派な部分ばかりが目立ちがちですが、野口英世についてはダメダメな部分にも有名なエピソードがあり、そんな愛嬌のあるキャラクターにも惹かれました。幼少期は鬼ごっこや野球など、外で遊ぶことが大好きな子どもでした。野球のポジションはセカンドで、中・高校と、ずっと野球部に所属しました。勉強が嫌いで先生に反発したことがあり、ある時先生から「もう授業に出なくていい」と言われたことがあります。自分がいと邪魔だといわれたことが悔しくて、のちに「人に喜ばれたい。誰かの役に立ちたい。」という思いが強くなっていました。3歳上の姉は現在X線技師をしています。子ども

もの頃から非常にまじめでよく比較されました。比べて自分はまだ真面目ではなく、どちらかといえば友人とのノリを優先するタイプでした。また、非常に負けず嫌いで、「自分でやってみて」ダメなこと、無理なことがあると思ってしまう。子ども頃から物づくりが好きで、効率よく合理的に動くことが好きです。料理も大好きで、一時は料理人、調理師、栄養士になりたいと考えたこともありました。実際高校に進学せずに、修行を経て板前さんになることも考えたくらいでした。もともと何か手に職を付けたいと思っていたからかもしれません。また書道をやっていたころ、周囲に書き方を教えたことがあり、その時とても褒められた経験がありました。そのころから誰かに何かを教えることが好きになったのだと思います。高校を卒業後、多摩リハビリテーション学院(以下タマリハ)に入学しました。実はその間に1年留年したのですが、この時の1年間が実は後に非常に大きな経験になりました。「こんな自分でもPTになってこうして教員をしているんだぞ!」という励ましを込めています。学生にもよく言うのですが、「分からない」とか「出来ない」って基本的に「わかんない」と思うんです。授業でも違っても良いから、失敗を恐れずに何かしら発言するように促しています。それでも難しい場合には、出来る限り学生と一緒に「なぜ出来ないのか」「なぜ分からないのか」を考えるようにしています。



好きなことといえば「ラーメンを食べること」。特に「つてり」が好き。ラーメン店に行くと、厨房を観察してしまいます。出汁の取り方、ゆで方、具材の作り方など、気づくと研究して自宅でも作ります。2008年に東京で開催されるオリンピック関係の仕事をしている同級生や、訪問介護施設、リハビリのサロンのオーナーをしている友人など、一風変わった友人関係も、多方面への知識や経験を増すきっかけになっているかもしれせん。また、タマリハの学生時代、精神医学を教えて頂いていた中村晃一先生を尊敬しています。現在も作業療法学科で教員をされていますが、とにかく授業やお話が面白かったです。中村先生の人間味がある温かな、寛容性の高いところがすごいと思っています。こんな先生になれたらと思います。今でも時々相談に乗って頂いています。

「正直に飾らず」編集後記

成塚先生は、まさに「等身大」という言葉がぴったりな先生だと思います。自分のことを、少しでも良く見せたくなるものですが、こうして書いていく自分にも当てる部分はあります。しかし先生ご自身の経験について「僕は勉強が嫌いだっただけです。授業の邪魔だから、お前なんかいらなくて言われたことがありません。でも、「出来ない」んじゃない、やらないうえに問題があるんです。こんな僕でも頑張ったら、ちゃんと資格を取れるんです。」と話してくれました。また「自分にウソをつきたくないので、なるべく繕わないようにしています。結局そういうことはバテてしまうので。」とのこと。普段の成塚先生は、楽しいこと、美味しいもの大好き!という印象の明るく元気で気さくな先生ですが、プラスして、とても情熱的な先生であることが分かりました。リハビリに興味を少しでもお持ちなら是非とも成塚先生のお話を聞いてみて欲しいです。きっとあなたの方向が見えてきますよ!



多摩リハビリテーション学院

作業療法学科・理学療法学科(高卒3年課程) 言語聴覚学科(大卒2年課程)

〒198-0004 東京都青梅市根ヶ布 1-642-1 TEL. (0428)-21-2001 FAX. (0428)-21-2410 JR東青梅駅から徒歩10分

